

# 平成 27 年度第 3 回成田市総合計画審議会会議録

## 1 開催日時

平成 27 年 11 月 11 日（水） 午前 10 時 30 分～12 時 15 分

## 2 開催場所

成田市花崎町 760 番地

成田市役所本庁舎 3 階 第 2 応接室

## 3 出席者

(委員)

野平会長、伊藤副会長、新井委員、清水委員、小野委員

山崎委員、小泉委員、匝瑳委員、高仲委員、山崎委員

(事務局)

企画政策部 根本部長

企画政策課 高橋課長、椿課長補佐、金光係長、高橋副主査、長野主任主事

## 4 議事（要旨）

- (1) 「総合 5 か年計画 2011」の平成 26 年度末の進捗状況について  
現総合計画の平成 26 年度末における進捗状況を報告した。
- (2) 基本計画及び実施計画の素案に対するパブリックコメントの結果について  
9 月 18 日～10 月 16 日の期間で実施した、基本計画及び実施計画の素案に対するパブリックコメントの結果について報告した。
- (3) 基本計画の原案について  
基本計画の素案から追加された項目について説明した。
- (4) 実施計画の原案について  
実施計画の素案から追加された項目について説明した。
- (5) その他  
今後のスケジュールについて説明した。

## 5 質疑等

(「総合5か年計画2011」の平成26年度末の進捗状況について)

□ 第3節「市民一人ひとりの健康で生きがいを持った生活をささえる」内の施策の単年度実施率がすべて100%を超えているのはなぜか。

→ 計画策定当初に比べ、年々扶助費が増加しているためである。

□ 保育園の入所定員は当初の目標をすでに上回っているが、今後、どのように事業を展開していくつもりなのか。

→ 大規模改修を実施してきたことで入所定員は目標値を超えているが、それでも待機児童や保留児童は解消されていない。今後は、民営の認定こども園や私立の保育園の参入も予定されており、子ども・子育て支援新制度を活用し、待機児童・保留児童の解消に向けて取り組んでいく。

□ 進捗率から考えて、計画は順調に進んでいると考えていいのか。

→ 当初に計画した部分に対して、事業費ベースではあるが8割を超える進捗率であるので、計画は順調に進んでいると考えている。

□ 指標に関して、目標を達成できていない項目については、次期総合計画にリンクさせていくのか。

→ 残りの期間での目標達成が難しそうな項目については、平成28年度以降も達成に向けて事業を継続していく。

(基本計画及び実施計画の素案に対するパブリックコメントの結果について)

→ 質疑等なし

(基本計画の原案について)

□ 重点目標に掲げられた施策と、その他の施策との違いは何か。

→ 優先的な予算の配分という意味合いも含めて、重点的にこの施策を進めていくという市の姿勢を見せている部分である。

- 国際市民フェスティバルには外国人があまり集まっておらず、国際交流協会が行う事業では、たくさん外国人が集まっている。この違いは何なのか。
- 事業の出発点が違っている。国際交流協会が行っている事業は、成田に住んでいる外国人の方々を対象に始めたものである。国際市民フェスティバルは生涯学習の意味合いで始めたものであるため、主な対象は市民である。この違いを理解したうえで、さらにいいイベントとなるよう進めていく必要があると考えている。
  
- スポーツツーリズムの部分で、大会等で使用する施設は既存の施設を考えているのか。また、スケートボードパークについては新たに作るのか。
- 基本的には、既存の施設を活用しながら必要に応じて設備を整えるといった考え方である。スケートボードパークについては、現在、新たに整備する方向で進めている。

(実施計画の原案について)

- 「小・中学校教育用コンピューター整備事業」の中にタブレットの導入とあるが、どういった経緯で導入することとなったのか。
- 国からICT環境の整備目標として、小中学校でのタブレット導入が提示され、近隣の市町村においてもタブレットの導入は進んできている。教育環境の格差を生じさせないためにも、積極的に事業を実施していく。
  
- タブレット端末導入に係る保護者の費用負担はあるのか。
- タブレットに関しては市でリースするため、各家庭への負担はない。
  
- 子どものスマートフォンの利用に関する様々な問題が出てきている中で、小学生がタブレット端末を利用することについての市の考えは。
- あくまで教育における利用に限定しており、授業内でのみ使用する予定である。子供たちへの影響として注意する点もあると思うが、早い段階でタブレット端末に慣れることで、子どもたちの将来的な情報技術の向上を目指していきたい。
  
- ICT支援員はどのようなことをするのか。
- 先生方の中でも、タブレット等の扱いに慣れていない方もいる。そうした先生方を支援するための人たちのことであり、ICT支援員が直接子供たちにタブレット等の使い方を教えるわけではない。あくまで子どもたちに教えるのは先生である。

- L C C の就航先と連携した観光客誘致を積極的に実施して欲しい。
- 毎年 L C C の就航先で、プロモーションイベントを実施している。また、今年度は、就航先から成田に来ていただいた方々のために、空港圏域の 9 市町で観光情報誌を作成し、成田を含めて広域的に空港周辺を観光していただければと思っている。
  
- 外国人観光客を受け入れるには W i f i の整備は必須である。彼らは観光地で様々な写真を撮り SNS にアップしている。W i f i が整備されていれば、その場ですぐアップできるため、無料の広告塔となってくれる。
- 参道に関しては観光協会によって整備がされている。今年、アメリカ陸上チームが中台陸上競技場に来た際に、先方から必ず W i f i 環境の整備をして欲しいと言われた。実際選手たちは競技場で練習風景や選手同士での写真を撮り、SNS にアップしていた。今後、スポーツツーリズムを推進していく上でも重要な項目であると考えている。
  
- 資産経営管理事業はどのような事業なのか。
- 資産の運営的な側面の検討はなく、統一的な資産経営の考え方に基づいて、維持管理費の軽減や更新費用などの公共施設に関する費用の削減を図っていく事業である。

## 6 傍聴者

2名